

K.I.T.虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務局 [メールまたは電話])
 ※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名	科目コード	単位数	開講期	講義形式
生成AIの活用実務特論 2	Z 161	1 単位	4 学期	ハイフレックス
Advanced Practice of using Generative AI 2				
科目分野		課程領域		
技術経営		イノベーションマネジメント共通科目		
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー		
植野 浩	-	メールアポイントにて随時		

関連している科目(履修推奨科目)

生成AIとビジネス・知財特論	生成AIの活用実務特論1
----------------	--------------

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

自分で定めたユースケースにおいて、生成AIを活用したり独自データを活用することで、ビジネス価値を創造できるかを、Day 1からDay4まで、徐々にレベルを上げて、道具としての生成AIの適用演習に取り組むことで、そのKnow Howや考慮点を身に付けることを目標とする。
 授業は、受講生各自が持ち寄った様々な業界ビジネスケース実例をユースケースとして、実践演習と論点整理を中心に進めていく。

Day1) 生成AI活用レベル1: 単独活用での個人の生産性向上や、業務品質向上を目指す演習と、関連する論点整理
 Day2) 生成AI活用レベル2: 自社の業務において独自データも活用しながら生成AIを用いたオペレーションの変革演習と、関連する論点整理
 Day3) 生成AI活用レベル3: 生成AIの人にはできない強みを活かしてビジネスモデルの変革や顧客・社会に対する価値創造チャレンジ演習
 Day4) 生成AIが社会に投げかけた課題についてのブレインストーミングを通じて、指数関数的に進化する生成AIに対して各自が正しく活用して行くための知恵やリスクへの対処などの論点整理

到達(修得)目標

様々な生成AI活用の発展段階(個人的利活用→業務生産性や品質向上への適用→新しいビジネスモデルでの価値創出)を、各自の持ち込んだユースケースでの適用検討を通じて理解し、身近な実務での生成AI適用が企画・検討できるようになる

受講対象者

生成AIのビジネス活用に関心があり、生成AIの基礎からビジネスへの効果的な適用などを幅広く学びたいビジネスパーソン全般

履修上の注意事項やアドバイス

2コマ連続で、全4回のセッションです。各セッションの履修後に、学びを振り返るためのレポート提出が求められます。レポートは全4回の提出が必須です。成績は、基本的に、各セッション後に提出されるレポートに基づいて評価されます。

- ※ 本科目は、隔週クラス(180分×4日間、合計8コマ)で構成する。
- ※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。
- ※ 担当する教員は実務家教員とする。
- ※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー	○	Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー	○	Z2: 独創力	○	X2: 構想	○
Y3: グローバル法令・実務		Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力		X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案	○	Z5: 変革推進力	○	X5: 変革	○
Y6: 標準化		Z6: コミュニケーション力		X6: 導入・運用	○
		Z7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	○
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	○
		Z9: オーナーシップ力	○	X9: ライフサイクル	

プラクティカム

イベント / ケース		教育技法	マテリアル / ツール
1	講義・質疑応答・グループ討議	質疑・討議による能動的学び	講義資料・講義内ミニ演習課題
3	生成AI各種ツールでの個人実務課題解決	各自ケースにおけるツール適用演習	レポート課題/各種OpenSource生成AI
3	生成AIの企業業務適用	課題演習レポートと発表	レポート課題/各種OpenSource生成AI
4	生成AIによるビジネスモデルのDX創出企画	課題演習レポートと発表	レポート課題/ビジネスモデル図
5	生成AI活用拡大の社会課題グループ討議と各自考察	ブレインストーミング・論点設定と考察	論点レポート課題

評価の方法		
(総合評価項目と割合)		評価の要点
出席・受講態度	10%	3レポートは、各講義日の前日を締め切りとし、講義当日には議論できるようクラス共有。 論点整理レポートは、Day4講義終了後1週間以内の提出。
生成AI個人利用ケース設定レポート	20%	
生成AI業務適用ケース設定レポート	30%	
生成AIによるDX企画ケース設定レポート	20%	
生成AI適用拡大の社会課題考察	20%	
合計	100%	

テキスト・参考図書など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	Day 1-Day4 個別講義資料(PDF)配布予定	各授業にて、その他の参考図書は随時紹介予定
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	『生成AI/30の論点2025-2026』城田真琴(日本経済新聞出版) 『デジタル社会の畏』西垣通(毎日新聞出版) 『生成DX 生成AIが生んだ新たなビジネスモデル』小宮昌人(SBクリエイティブ) 他	

参考URL

適宜、個別講義資料にて紹介予定

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1	身近な土台業務(文書作成、要約、アイデア出し、調査、翻訳、プログラミング、画像デザインなど)での生成AIツールの活用ケースを紹介し、個人が自己判断で簡単に実業務の様々な局面で生成AIを適用できるイメージを持つ。	必要に応じ適宜指定	植野	180分
	イベント ケーススタディ(様々な個人で行う”土台業務”での生成AI適用ケース紹介)			
2	(講義内演習+レポート課題1発表) 個人的に設定したユースケースに対する生成AIの実践的適用と結果評価を、演習として行い、結果評価を行い、結果をクラス発表する	(レポート課題1) 個人の仕事での生成AI適用ユースケース選定と適用評価	植野	180分
	イベント 受講生による課題レポート(1)発表と講師&クラスメンバーからの講評			
3	生成AIを実務適用する際の3レベル(個人効率化適用・企業業務モデルへの適用・DXへの適用)の違いを把握する。また、様々な企業業務モデルへの適用で、人と生成AIの協働作業による効率化や業務品質向上の適用事例を学ぶ	必要に応じ適宜指定	植野	180分
	イベント 事例紹介(様々な企業での、実務での生成AI適用ケース紹介)			
4	(レポート課題2発表) 各自の会社業務での人と生成AIの協働で行うことで効率や品質をあげる取り組みを想定し、実装計画を策定し、結果をクラス発表する	(レポート課題2) 自社業務での人と生成AI協働適用ケース選定と適用評価	植野	180分
	イベント 受講生による課題レポート(2)発表と講師&クラスメンバーからの講評			
5	生成AI適用により自社ビジネスモデル変革(DX)を引き起こした適用事例を学ぶ	必要に応じ適宜指定	植野	180分
	イベント 事例紹介(様々な企業での、実務での生成AI適用ケース紹介)			
6	(レポート課題3発表) 各自の設定した生成AIによるビジネスモデル変革について企画し、想定される課題や効果をクラス発表する	(レポート課題3) 各自が企画する生成AIによる自社DX(ビジネスモデル変革)企画と課題整理	植野	180分
	イベント 受講生による課題レポート(3)発表と講師&クラスメンバーからの講評			
7	生成AI時代の人の果たすべき役割と生成AI拡大で引き起こされる実務課題や社会課題(例:フェイクニュース拡散、AIと著作権問題、XaaS拡大、etc)のいくつかの深堀り、問題意識を高める。	必要に応じ適宜指定	植野	180分
	イベント ケーススタディ(具体的に起こっている生成AIに絡んだ実務課題、社会問題の紹介と分類)			
8	(グループ討議) Session7で取り上げた、生成AIの拡大が引き起こす様々な実務や社会実装課題の中から最も重要と思ういくつかをチームで選択し、その課題の対応方針を考察してまとめる。	(事後レポート課題4) グループ討議で議論した課題への対応方針に加え、本人の生成AI適用拡大に対する考察レポートをDay4終了1週間後までに提出	植野	180分
	イベント ビジネス・技術・社会課題に対するグループ討議(ブレインストーミング)とチーム発表			

※ 講義日程は、学事ポータル上の講義日程表をご参照ください。

※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。